

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		町田市子ども発達センター		公表日		2026年 2月 25日	
		チェック項目		工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など		課題や改善すべき点	
		はい	いいえ				
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	6	2	・お子さんの様子や観察ポイントに合わせて、視覚提示等の実物や参考書、研修資料等を持参し、提示することで、現場の職員にわかりやすい提案を行うことができる。 ・園に支援案などを提案する際に示すことができるツール案が各職員ごとに用意している。職員間で共有できるツールや教員教材、サンプル集などがもっと充実していると良い。 ・昨年度と比べ、ケースカンファなどをあけて、問題点、課題点などを共有できる時間が増えた。	・訪問支援の場で活用する教員教材については、所属園の方針や状況について共有したうえで、ご提案していきたいと考えます。 ・お子さんの集団適応に役立つ教員・教材や視覚提示カードなどのツールの具体的な使用方法などをご提案できるよう努めていきます。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	・職員が兼務で対応しているため、年間3回程度（1回/月）の訪問頻度として契約時に承諾を得ている。 ・配置数は足りないと思う。訪問支援は作業量が多いので、もう少し配置数を増やしてほしい。 ・職員の増員が必要。	・ニーズにあった人員配置については、課題として認識しています。今後も業務の効率化を図り、より効果的に支援を提供できるよう取り組んでいきます。	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	・月1回の定例会議が実施されており、その都度業務改善について話し合う時間が確保されている。 ・広く職員が参加して、定期的なミーティングやカンファレンスを実施しています。 ・担当の打ち合わせでカンファレンスを行うことができることがあった。	・月1回の訪問支援に関する定例会を実施し、課題の共有と改善に向けた支援員の意見交換・検討を重ねています。 ・個々の事例についての振り返りを実施する機会を増やしていきます。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		・保護者の方々のご意向は、事業の質を高めるために非常に重要なご意見と認識しております。月に1度の定例会等を活用し、改善点を職員間で共有し、支援の質の向上を図っています。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・システム導入後の運用方法、報告書書式の修正等、業務改善時には担当者の意見を広く募った上でやっている。 ・月1回の定例会議がその機会になっている。 ・広く職員が参加が参加して、定期的なミーティングを実施している他、チャットを活用してリアルタイムで情報共有を図っています。 ・計画書及び報告書の見直しを進めている。	・今後も月に1度の定例会やチャットでの即時の意見の共有等を活用し、意見を把握する機会を設けながら、業務改善につなげていきます。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	・予算の確保がないため、第三者評価は未実施。	・第三者による外部評価は、実施に向けて引き続き言及していきます。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・担当定例会（1回/月）にて、事例検討を行い、職員の資質の向上を図っている。 ・年間を通して外部講師による研修、内部講師による研修が組まれている。 ・昨年度は、保育所等訪問支援をテーマにした研修が実施できてよかった。 ・就学先の見学などを行い、情報提供の質を高めている。	・職員の資質の向上については、年間を通して計画的に研修の機会を設けています。	
	6	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	8	0	・計画作成にあたっては、保護者と可能な限り対面での面談を行っている。また所属先からの聞き取りも踏まえ、作成を行っている。作成後は保護者と内容について話し合ってから確定としている。 ・工夫している点：基本的な聞き取りに加え、必要に応じて専門職（心理士、作業療法士、言語聴覚士）による評価を実施したうえで支援計画を作成しています。 ・発達検査や聞き取りを中心にできるだけ適切な計画を作成するようにしている。	・左記の通り、実施しています。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・必要に応じて専門職の訪問や相談の機会も設け、計画にも反映するようにしている	・支援計画の策定や実施後においても、職員間でのフィードバックを行っています。また、ニーズに合わせて多職種支援員による連携を図ることで、支援の質の向上を目指します。	
適切な支援の提供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	8	0	・所属先からも聞き取りを必ず実施している。また、作成した計画は所属先にもお渡しし、共有している。 ・訪問先の施設の方針や先生方の考え方を確認し、実現可能な計画を作成することを心がけています。 ・必ず、訪問先施設の様子を聞き、反映している。	・保育所等訪問支援計画の立案においては、保護者やお子さんの希望に基づき、訪問先施設の担当者や担任の方々からもお子さんの様子や意向を事前に確認し、計画を作成しています。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	・担当者全員が閲覧できるようにしている。	・すべての担当者が閲覧を通して計画内容の確認を行い、共通理解を深めています。	
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・K式発達検査を用いているが、検査者（心理発達相談員）から検査結果のフィードバックを受け、訪問時の集団場面の観察に活かしている。 ・全員ではないが必要性に応じて新版K式発達検査を実施し、アセスメントを行っている。 ・発達検査を含め、アセスメントを実施した上で、必要に応じて専門職による評価も実施しています。 ・就学後の発達検査を当センターでは実施していないので、必要に応じて他機関で実施してもらうようにお伝えし、結果は共有させてもらっている。	・「新版K式発達検査2020」を実施して、お子さんの発達についてアセスメントを行っています。その他、言語面や手先の運動面等について、必要に応じて専門スタッフがアセスメントや相談を実施しています。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・個々に合わせた目標を設定するようにしている。	・左記の通り、実施しています。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	・担当者全員が計画を閲覧し、支援のあり方も相談しやすい状況になっている。	・左記の通り、実施しています。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	・多職種連携支援等で、複数の職員で同行訪問を行う際は、支援前後に打ち合わせを行っている。 ・保育所等訪問支援については、必要性に応じて多職種支援という形で、他の専門職と連携して支援にあたる際もあり、その際は必ず事前に打ち合わせをしているが、基本的には担当者のみで訪問しているため、「必ず」実施しているというわけではない。 ・必要に応じて、複数の職員で訪問し、より丁寧にお子さんをみる事ができるよう工夫しています。 ・多職種支援等で複数で訪問する際には打ち合わせた上役割分担している。	・全員での打ち合わせが難しい場合でも、必要な情報を効率的に共有できるように、体制を整えています。		

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	・多職種連携支援等で、複数の職員で同行訪問を行う際は、支援前後に打ち合わせを行っている。 ・上記と同様の理由により、必ずというわけではない。 ・単独で訪問した際にも他の職員に報告している。	・必要に応じて多職種で連携を図り、各専門職の視点を活かした振り返りを行うことで、より充実した支援を提供できるよう努めます。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	8	0	・訪問先の理念や支援方法を尊重したうえで、可能な範囲で実行してもらえる支援内	・訪問先の理念や支援方法を尊重しながら対応可能な方法をご提案することを基本としています。事前の情報共有や定期的なフィードバックを通じて、お子さんの集団適応の向上を図ることができる支援を提供しています。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	8	0	・記録し、報告書を作成し保護者や支援先と共有し、次回の支援に生かしている。	・報告書を担当支援員全員で共有し、必要に応じて改善を行っています。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・訪問前に連絡する際に、最近の様子を確認し、支援計画に生かすこと、支援に生か	・概ね6ヶ月に1回以上、保護者の意向やお子さんの様子、訪問先の意向を確認し、訪問支援計画を見直しを行い、支援の質を維持しています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・まだこうした会議が少ないので、もっと開催できるとよい。	・必要に応じて、担当者会議等に参加し、お子さんの状況把握に努めています。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	・連絡会に出席、保護者同意の上での連絡等を行っている。	・既存の連絡会に参加し、個々の関係機関とも積極的に連絡を取り合うことで、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育などと連携した支援体制を整えています。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	・主に就学支援シートの作成を通して行っている。 ・就学相談資料や就学支援シートの作成、連絡会への参加、電話での引継ぎ、就学後早い時期に訪問を行う等を通して、円滑に引継ぎが行えるようにしている。	・就学時の移行では、就学にかかる連絡会や就学支援シートを活用し合うことで、支援内容等の情報共有と相互理解を図っています。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	0	・とても大切なので、更に機会を増やしていけるとよい。	・質の向上のため、児童精神科の嘱託医とのケースカンファレンスを通して、共に支援に関する助言を受けました。また、外部から専門講師を招いた研修を実施しています。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	2	・当センターとして参加しているが、保育所等訪問支援の担当者は出席していないの	・必要に応じて、地域の会議等へ参加する体制を整えています。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	・保護者の発信力により差が出てくる面があるので、工夫していけるとよい。	・訪問後にお子さんの変化やその後の状況についても確認を行うことで、継続的な支援の質を向上させています。保護者からのフィードバックを大切に、支援方針に反映していきます。
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	・当センター主催の保護者研修会以外の参加できる研修の案内を積極的にしている	・ペアレントプログラム（にこにこプログラム）や保護者研修会を実施しています。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・契約説明会での説明、状況が変わった時には寄り添っての相談も行っている。	・利用者の利便性を考慮し契約日を平日だけでなく土日にも実施しています。契約時には、運営規程や利用者負担について丁寧に説明を行い、利用者の理解と安心感を高めています。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	8	0	・初めて保育所等訪問支援を利用する訪問先には、特に丁寧な説明を心掛けている。	・新規訪問先にはパンフレットを提供し、事業目的の説明を行っています。年度初めには、関係機関へ事業案内を配付し、周知活動を行っています。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	・子どものリクエストでの訪問も実施し、保護者だけでなく、子どもの意向も尊重し	・計画作成時には、お子さんや保護者の意思を尊重し、最善の利益を考慮するために、面談や電話で意向確認の機会を設けています。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	8	0	・HUGでの配信をした上で、意向を確認している。	・「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容を説明し、保護者から同意を得ています。また、電話やオンライン面談など複数の手段で意見を伺う体制を整えています。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・いつでも受け付けて対応している。	・家族等からの子育ての悩みや相談に対して、訪問前の聴き取りや訪問後の報告などの機会を通じて適切に対応しています。さらに、必要に応じて随時相談を実施しています。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか、また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	3	・現状は保育所等訪問支援の保護者会は無いが、児童発達支援の保護者会はある。	・利用者を対象とした保護者研修会を実施しています。その他の保護者同士の交流やきょうだい同士の交流を支援する取り組みについては、今後の課題と認識しています。
	33	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	・内容により、専門職に振り分けて、適切な相談を行っている。	・相談や申し入れに迅速かつ適切に対応するため、担当者以外の職種も含めた体制を整備し、お子さんや保護者に周知しています。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	・HUGを活用して必要な情報が配信できるようにしている。	・まだ子育てサイトに事業内容の詳細を記載しています。成長療育支援システム「HUG」の活用により、必要に応じて情報を発信しています。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・法令に基づき厳正に取り扱っている。	・個人情報保護研修を職員全員が受講し、取り扱いには十分に注意しています。
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	・適宜、写真やイラストなどの視覚支援を行っている。 ・理解の水準に合わせた説明を行うように心がけている。	・意思疎通や情報伝達は、丁寧に話を聞くことを重視し、配慮をもって対応しています。	
訪	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	8	0	・必要に合わせて、専門職が対応できる体制になっている。	・訪問先からの相談には、速やかに対応をしています。担当支援員だけでなく、多職種連携をしながら助言や支援をする機会を設けています。

訪問先施設への説明等	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	8	0	・訪問し、児童の様子を拝見した後対面で、あるいは帰所後に電話になる場合もあるが、必ず行っている。 ・必ず振り返りを行っている。直後が難しい時には、都合のいい時間に、オンライン等で振り返りも行っている。	・訪問直後に対面、電話やオンライン面談等の複数の手段で、訪問先施設とカンファレンスを実施しています。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	8	0	・原則としては対面の面談で、場合によってはお電話になることもあるが、必ず行っている。 ・電話などでの概要の報告、報告書を作成後の直接及びオンライン及び電話での面	・対面、電話やオンライン面談等の複数の手段で、家族等への支援内容の共有を図っています。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・厳正に対応している。	・個人情報保護研修を職員全員が受講し、取り扱いには十分に注意しています。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	8	0	・訪問先施設の移行の尊重をした上で助言を行っている。	・左記の通り実施しています。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・マニュアルを整備、訓練を実施している。	・BCP(事業継続計画)を策定し、職員を対象とした研修・訓練を実施しています。 ・自衛消防訓練の年間計画に基づき、地震・火事を想定した月1回の訓練を実施しています。また、年1回の不審者対応訓練を実施しています。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	・研修も行っている。	・自然災害や感染症の蔓延等、有事の際でもできる限り最低限のサービスを提供し、事業を継続するための計画を策定しています。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・まだヒヤリハットの報告が少ないので、もっと報告し、防止につなげていけるとよ	・ヒヤリハットの状況の分析と対応についての記録を「ヒヤリハット集」としてまとめ、再発防止に役立てています。 ・ヒヤリハットの内容・改善策については、毎日のミーティングや定例会議において職員全員に周知し、危険予防につなげています。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・研修を複数行い、対応が適切になるようにしている。	・虐待防止委員会を設置し委員会の開催、虐待防止チェックリストの実施、職員全員を対象にした虐待防止研修を実施しています。 ・「町田市子ども発達センター虐待防止のための指針」を策定し、遵守しています。
46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0		・身体拘束の適正化については、委員会を設置し、「町田市子ども発達センター身体拘束適正化のための指針」を策定し遵守しています。	